

中国帰国者定着促進センターの在り方の見直しについて

(現状)

- 定着促進センターは、
 - ① バリアフリーの施設ではなく、高齢化している帰国者には不便。
 - ② 建設後30年が経過、設備等の耐久年数を超過しており、大規模な修繕が必要。
- 永住帰国者の減少により、今後は少数世帯での研修となっていくと想定。

(検討内容)

- 今後の永住帰国者の減少を踏まえると、定着促進センターにおける事業規模は縮小。既存施設の利用は、事業規模に比し、修繕の必要性等を考えると不経済。
- 一方、定着促進センターの機能は当面必要なため、機能をどういう形で維持していくか。
 - ① 賃貸等により別施設を確保し、引き続き定着促進センター事業として実施
 - ② 独立した定着促進センター事業は廃止し、他施設〔例 首都圏中国帰国者支援・交流センター(以下「支援・交流センター」という)〕に統合して日本語教育や基本的生活指導の支援を実施